



国民の森林・国有林

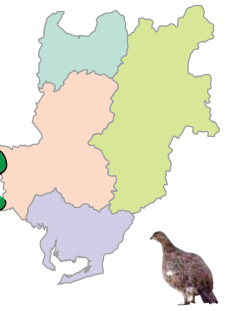
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



来賓として挨拶する新島局長

あれから3年、

「南木曾町豪雨災害復旧工事竣工報告会」

南木曾町の主催で開催

主な項目	○ 無人航空機 (ドローン) 講習会を開催	P2
	○ 各地からのたより	P3
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P8

無人航空機（ドローン）

講習会を開催

「企画調整課、技術普及課」六月八〜九日に中部森林管理局及び飯綱高原スキー場において、無人航空機（ドローン）講習会が開催され、管内各署等の職員四十六名が受講しました。

この講習会は、無人航空機を業務全般に活用するため、管内全署等に配置したことに併せて行ったものです。

一日目は、局大会議室にて、航空法と中部局版「無人航空機マニュアル」の説明と、実際に飛行する際に必要となる知識等について講習を行いました。講習内容は、飛行に必要な内容ばかりであるた



真剣な面持ちで聞き入る参加者



実際にドローンを飛行させて実技講習

め、参加者は真剣な面持ちで受講していました。

二日目は、飯綱高原スキー場に場所を変え、四台の無人航空機を使用した実技講習を行いました。参加者は交代でそれぞれ数分間、離陸前準備、離陸、飛行中の操作、着陸を行い、また無人航空機の自動帰還機能や、撮影機能等について確認をしました。

参加者からは、無人航空機の高機能に対する驚きの声や、具体的に様々なシチュエーションで活用を提案する声がかれました。

受講者には、今後、それぞれの現場にて実際の使用と訓練により自己の技術を高め、また、他の職員を対象に伝達講習

により使用者の拡大など、無人航空機の活用に向けた取組が期待されます。



上空120mからのドローン撮影写真

中日森友隊がボランティアで 除伐作業を実施

「ふれあいセンター、木曾署 中日森友隊は、主に愛知県内の住民が参加し、平成八年に結成されたボランティア団体です。育林作業を通じて森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ、次の世代に伝えることを目的に愛知県設楽町の段戸国有林で設定中の「中日森友隊の森」をはじめ、県

内外で活動しています。

六月十日、木曾森林管理署管内の御岳国有林内「国民の森」において除伐作業を実施しました。

「国民の森」は、昭和五十九年九月十四日に発生した長野県西部地震により土石流が濁川を埋め尽くした跡地に、昭和六十二年五月に当時の長野営林局と中日新聞社が、共同で約一七畝を造成した場所です。中日森友隊では結成直後から当地を訪れ、除伐等のボランティア作業を継続しています。

当日は、三十二名の参加者が五班に分かれ、当センター職員二名、木曾森林管理署内及び地元森林事務所から六名の職員が各班に分かれて作業指導を行いました。



職員から作業方法・注意点の指導

(3) 平成 29 年 7 月

参加者の中には以前にも参加している方が多く、ハンノキ、コナラ、カンバと共に植えられたヒノキが、胸高直径一四〇センチ程度に生育し、うっそうとした林の中、ノコギリを手慣れた手つきで扱い、除伐木の伐倒や伐倒木の玉伐り、集積の作業に汗を流しました。

作業開始から一時間経った頃に降雨のため、作業を中止せざるを得なくなり、参加者からは「調子が出てきたところなのに残念」との声もありましたが「林の中が明るくなり、気分爽快」機会があればまた来たい」との声が聞かれました。



手馴れた様子で作業する参加者



向井南木曾町長の挨拶

報告会には、国会議員をはじめ復旧復興に関わった関係者や地元住民など約百三十名が出席し、当局からは、新島局長、酒向支署長のほか治山グループ四名が参加しました。

報告会をはじめるにあたり、災害で亡くなられた一名の若者の尊い命に黙とう

を捧げたのち、向井南木曾町長より、「多くの皆様に助けていただきながらも復興に取り組んできたことを町の将来へとつなげ、住民一同今後とも精一杯、活気あふれる地域づくりにも励んでまいります。」と挨拶がありました。

来賓として出席した新島局長は、「中部森林管理局が災害発生直後から復旧に向け全力で取り組んだことや、これらに対応について人事院総裁賞を受賞したこと、そして、今後万一大規模な災害が発生した際には、国有林の技術力をフルに活用し、被災自治体を支援していくこと、さらには、これからも国有林としてより一層地域の皆様に寄り添い、地域の皆様のために精一杯汗を流していく」と挨拶で述べました。

各地からのたより

あれから三年
「南木曾町豪雨災害復旧工事
竣工報告会」を開催

「南木曾支署」平成二十六年七月に地域に甚大な被害をもたらした南木曾町豪雨災害から丸三年となる七月九日に、町主催による「南木曾町豪雨災害復旧工事竣工報告会」が町内の小学校体育館において開催されました。



竣工報告会の会場の様子

つづいて、災害の発生時から復旧に至るまでをまとめたスライド映像が紹介され、工事関係者から地域の方々へ工事への協力に感謝の意が伝えられました。

最後に、住民を代表して土石流が発生した梨子沢の左岸横にある南木曾小学校の当時の学校長から、「スクールバスが運行していた小学校手前の橋梁も被災し流出してしまっなど、児童にも多くの悲しい思いをさせてしまった。梨子沢は、新たに整備され美しく生まれ変わりました。そして暮らせるようになりました。しかし、蛇抜け（※土石流）が起こったことは、後世に語り伝えていきたい。」と話され、報告会は閉会となりました。

（※南木曾には、「白い雨が降ると抜けろ。」という俚諺がある。）



報告会で紹介されたスライド

ゴミゼロ運動を実施

【飛騨署】五月三十日、標高二〇〇〇前後の高地トレイニングエリアとして最近注目されている「御岳自然休養林」(高山市高根町)にて国有林ゴミゼロ運動を実施しました。

当運動は、一般観光客等の入り込みが多い自然休養林の周辺の道路、駐車場、歩道等のゴミをなくそうと、名古屋林業土木協会、名古屋造素協、高山市やチャオ御岳スノーリゾートスタッフの協力を得て毎年実施しているものです。

当日はすがすがしい天候のなか、約五十名の参加者が集まり清掃活動に汗を流し、軽トラ二台分(一四〇kg)にも及ぶゴミを片付けることができました。この取り組みによって、捨てられるゴミも年々減少傾向に向かっています。

当署では、地域住民との協同作業の重要性とその効果を認識し、今後も継続していきたいと思っております。



回収された、軽トラ2台分のゴミ



参加者全員で記念写真

ミズバショウ群生地に電気柵設置

【飛騨署】六月四日、飛騨森林管理署管内にあるミズバショウ植物群落保護林(高山市荘川町 山中山国有林)にてニホンジカ等の侵入防止のため電気柵設置作業を実施しました。



支柱へ電線を取付作業中



岐阜大学生による作業の様子

同区域は、岐阜県の天然記念物「山中峠ミズバショウ群落」にも指定されており、自動撮影装置を用いた調査データにより、ニホンジカが湿原に侵入することが確認されたことから、この時期に電気柵を設置しています。この取り組みは平成二十三年度から毎年、地元寺河戸町内会、岐阜大学、高山市、飛騨森林管理署が連携し保全活動を続けています。

本作業は今回で七回目となり参加者も手慣れたもので、岐阜大学生十名の参加が得られたことから作業はスムーズに進みました。毎年の取り組みによって、防護柵内での食害はほぼ完全に防がれ、減少傾向にあったミズバショウも徐々に回復しています。年々、ニホンジカの分布域が拡大し高山帯への侵入も懸念されることから、今後個体数調整と合わせた取り組みが必要となっています。

鳥獣保護・

獣害対策講習会を開催

【愛知所】六月十三日に、愛知森林管理事務所会議室において、「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催しました。

講習会は、職員とともに民国連携の観点から東三河地区の市町(新城市、設楽町)及び愛知県関係機関からの参加者を含めた三十二名が参加しました。

講習会は、まず愛知県環境部保護課職員を講師に招き「狩猟と許可捕獲について」と題して、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要、愛知県が策定した鳥獣保護管理事業計画の概要、愛知県の鳥獣被害状況及び被害対策状況等の説明を受け、鳥獣保護や狩猟についての知識を習得しました。



「狩猟と許可捕獲について」講習会の様子



「くくり罠」の実演紹介

その後、当所職員から「くくりわな」について実演による紹介を行いました。愛知県内でもニホンジカの個体数の増加や分布区域の拡大により被害が深刻化しつつあり、広域的な被害対策の推進が求められています。

当所においても講習会等を通じた知識の向上に努めるとともに、引き続き防護柵等による被害防止対策、生息状況調査の実施、猟友会との連携による捕獲の検討を行うなど、効果的な被害対策の推進を図ることとしています。

初めてドローンを体感

南木曾支署で職員説明会を開催

「南木曾支署」当署では、六月十三日に職員を対象にドローンの説明会を開催し

ました。説明会では、先日局での講習を受講した中村治山技術官、古田地域技術官から無人航空機に関する安全な飛行の確保マニュアル(平成二十九年六月中部森林管理局)の説明を受けた後、与川森林事務所内の南木曾国有林で実際に両名が操縦しながらの説明となりました。

参加者からは、①事業に活用するため国有林野地理情報システムとの連携を図ると使用しやすい、②業務計画等の山見や治山・林道の災害把握には能力を発揮できる、③地表植生までも確認できるので植付の全域検査にも活用できる、④シカ防護柵の巡視はズーム機能があると便利等の意見が出されました。

今回の説明会は出署日で全職員が集まる機会にドローンの性能や現場での活用方法等の説明を目的に開催したものであ



ドローンを実際に操縦しながら説明

り、今後は各種調査や災害対応等、各業務で活用に必要となるオペレーターを養成するため講習会を開催するとともに、町村職員や議員の国有林視察、さらには森林教室や植樹祭など一般を対象とした各種イベント等の機会を利用して国有林の新たな取り組みや技術を広く紹介していくこととしています。



ドローンからの遠望写真

湿原の荒廃を守れ

イノシシ対策で官民連携

「富山署」六月十三日、水無国有林でN



伏せ施工

PO法人利賀飛翔の会と富山森林管理署が合同でイノシシ対策用のワイヤーメッシュ柵の設置を行いました。

当該地は、ブナを主体の広葉樹林に囲まれた湿原が広がり、ミズバショウ、リュウキンカ等の湿性植物群落や希少種のヤシヤビシヤク、ヨウラクツツジが自生し、富山県白木水無県立自然公園第一種特別保護地域の指定を受けています。

かねてよりイノシシによる植物根の食害跡が確認され、くくり罠の設置など有害鳥獣捕獲に取り組んできていますが、被害状況の確認により湿原の荒廃が懸念されてきました。

そこで、昨年十一月、富山大学、富山県、南砺市、NPO法人利賀飛翔の会と協議を重ねる中でワイヤーメッシュ柵を設置することを決め、雪解けを待って今

回設置したものです。

設置方法は、亜鉛メッキ鉄線（線径五ミリメートル、横二メートル×縦一メートル）の網をかぶせる「伏せ施工」と、網を立てて組む「立て施工」の二通りとし、十一月上旬まで設置を続け、狩猟による捕獲と併せて設置効果の検証を行うこととしています。



立て施工

中野区立白桜小学校五年生を

対象に「森林教室」を実施

〔東信署〕六月十四日、東京都中野区立白桜小学校五年生の生徒五十六名を対象とした森林教室を長倉山千ヶ滝周辺の国有林で実施しました。

中野区教育委員会と東信森林管理署との間で遊々の森の協定を結んでおり、その一環として実施しました。



森林の働きの説明について耳を傾ける児童

当日は、除伐体験班と森林散策班の二班に分け、除伐体験班はヒノキの除伐を森林散策班は遊々の森の散策を行いました。除伐する木を児童に考えてもらい、なぜその木を伐るのかみんなで話し合いをしてからノコギリで伐倒し、きれいに玉切りしたあとコースターにして持ち帰ってもらいました。

森林散策では森林の働き、間伐の目的など約一時間歩きながら案内人の話を興味深く聞いていました。

昼休みには測竿を使って、木の高さを測る体験もしてもらいました。

また来たいといった声をたくさんいただき、有意義な一日となりました。

戸隠森林植物園のオフィシャル サポーター協定を更新

〔北信署〕六月七日、戸隠森林植物園保護管理協議会と一般財団法人日本森林林業振興会長野支部による「戸隠森林植物園」の整備・管理及び活用に関する支援協定更新のための調印が行われました。

この協定は、平成二十三年三月二十三日、同協議会と日本森林林業振興会長野支部が、戸隠森林植物園内施設整備のために締結したものであり、今回の更新により、平成三十一年六月三十日までの間、歩道修理用資材の提供等にご協力いただけることとなりました。

戸隠森林植物園保護管理協議会の極意



調印後、笑顔で握手する土田支部長（左）、極意会長（右）



提供資材で補修されたバリアフリー歩道

憲雄会長からは「経済環境が厳しい中、支援協定を三度にわたり更新していただき大変感謝致します。近年、戸隠はパワースポットとしてもマスコミ等に取り上げられており、海外からの観光客も増加している。提供される資材等は、戸隠森林植物園の利用者へ安全で安心して訪れてもらえるようにしっかり役立てたい」とお礼の言葉がありました。

当該協定による資材は、毎年、戸隠森林植物園内のバリアフリー歩道の補修用資材等として利用させていただいていることから、北信署としても、今後、地元長野市をはじめ、関係機関と協力しつつ、更なる整備に努めていくこととしています。



「東信森林管理署 佐久平森林事務所」

首席森林官 野尻 靖

佐久平森林事務所は、長野県佐久市岩村田に所在し、佐久市及び佐久穂町を流れる千曲川を挟んで、東側の茂来山や妙義荒船佐久高原国定公園に指定されている荒船山などと、西側の八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている八ヶ岳連峰の北横岳、大岳などの、中腹～山麓近くに至る標高九〇〇メートル～二四七二メートル、約九七〇〇畝の国有林野を管轄しています。



平尾山から佐久平、八ヶ岳方面
(立科・大曲・屋敷入奥国有林)の
大展望 (中央ピークは蓼科山)

管内国有林の約七割が人工林で大部分がカラマツ林となっています。ヒノキが植栽されている箇所もありますが、徳利病となる傾向が強く、人工林の適地適木はカラマツであると考えます。東信地方

のカラマツは強度があるとともに、脱脂、加工技術等の進歩により近年ますます人気、需要が高まってきています。最近では年間一立方メートル前後の木材を、生産性向上実現プログラムにより高効率・低コストかつ安全を意識しながら活力みなぎる木材生産を実施しています。

また、人工林の中やその周辺にもナラ・クリ・カンバなど天然木が生育している箇所もあり、これらを活用した「多様な森林づくり」にも力を入れ始めたところですが。今後は実践、実験、研究を重ねながら技術を確立し、現地に適した最適な方法で森林づくりをしたいと考えます。

しかしながら、近年、管内でもニホンジカによる立木食害が増えてきています。特に下層植生が雪に覆われる冬期間に根際や樹皮が食害されている立木が目立つようになり、今年度から猟友会の協力を得ながら委託事業によるニホンジカの捕獲に乗り出しました。今後、ニホン



皆伐地にナラ等の母樹を残存させて
天然更新を図る多様な森林づくり
(大曲国有林)



双子池 雄池 (屋敷入奥国有林)
(中央ピークが大岳、対岸中央で治山工事を実施)

ジカの行動、生態等を分析して効果的な捕獲時期の検討や最良の方法を講じながら森林被害を防止していきます。

管内には比較的容易に楽しめる登山・トレッキングスポットも数多くあります。北八ヶ岳方面の北横岳、大岳、双子山、東の荒船山などがあります。また、茂来山の中腹には森の巨人たち百選「茂来山のコブ太郎」(トチノキ・推定樹齢二五〇年・胸高直径一七〇センチ)がどっしりと大地に根を張っています。ピークハントにこだわらずとも大自然を満喫することができます。しかしここまで行けば茂来山までわずか、せつかくなので頂上まで足を延ばしてみましよう。八ヶ岳連峰大岳の下方には上から望むとティアドロップサンングラス形状のカルデラ、双子池(雄池・雌池)があります。現在、雄池畔の山腹崩壊地を治山工事(山腹工)で自然環境に配慮しながら林地復旧をしています。近い将来、更に神秘的で

静寂な世界が皆様の心身を癒やすことでしょうか。

それから忘れてはならないのが、神山国有林(佐久市田口)にある「日本で一番海から遠い地点」です。海岸線からの球面距離が静岡・神奈川・新潟の四地点からほぼ一四・九キロメートルで、到達写真等を佐久市観光協会に送ると到達の認定証をいただくことができ、マニア急増中です。是非チャレンジしてみてください。

よろしければ案内も承ります！
当事務所の職員は、森林官、森林技術員の二名で、どんなに多忙を極めても、どんなに困難な場面でも楽しみながらやっています。

森林づくりは、まず山に行って山を知り、将来どういう山にするべきかという考えを持ち取り組むことが大切であると考えています。

嗚呼、今日も山の空気と弁当がうまい！



日本で一番海から遠い地点(神山国有林)
(左が筆者、右が森林技術員)



紅葉の天生高層湿原 (写真1)

奥飛騨の秘境・飛騨市河合町は、岐阜県北部に位置し、東は槍・穂高などの北アルプス、西は霊峰・白山を望む山々に囲まれた地で、日本海型の気候区に属し特に冬の降雪量が多く豪雪地帯に指定されています。白川村との境にある天生峠は一年の半分を雪に閉ざされています。



天生峠(標高二一九〇メートル)を起点とする六・一キロメートルの遊歩道は、中部北陸自然歩道に指定され、健脚向きの登山コースとなっています。峠駐車場から約一・四キロメートル、森林浴を楽しみながら登ると植物群落保護林(天生高層湿原)。ここには匠屋敷があり古来の伝説を漂わせていま

秋には、様々な種類や形、大きさの植物が立体的に混在していることから、赤・黄・レモンイエローなどの複雑多様な紅葉(写真1)を楽しむことができます。

雪解けの直後のミズバシヨウに始まり、ニリンソウ、サンカヨウ、ニッコウキスゲ、コバイケソウなど、花が絶えることがないのが天生の大きな魅力です。なかでも天生高層湿原や溪畔林では、春から初夏にかけて一面お花畑になります。山地帯(ブナ帯)から亜高山帯の植物や湿原の植物をはじめ様々な種類があり、四十数種の野鳥など多様な動物の生態系を観察することができる優れたフィールドです。

天生県立自然公園(平成十年四月一日指定)の古川担当区部内は、天生国有林二五五鈴、横谷国有林六一鈴で天生峠以南の広大な面積のブナの原生林の他、高層湿原、カツラやサワグルミなどの大木で構成される溪畔林、更に標高が上がるにつれてダケカンバやオオシラビソの亜高山帯の植生や風衝地など、変化に富んだ豊かな自然を見ることが出来ます。

高層湿原を眺めながら〇・五キロメートルでカラ谷分岐(標高一三六〇メートル)へ。ここから木平探勝路(木平湿原を過ぎるとダケカンバ、ブナの原生林)、カラ谷登山道(カツラの巨木群「カツラ門」(写真4)があり写真撮影の人気の場所)、ブナ探勝路(ブナの原生林は天生県立自然

秋には、様々な種類や形、大きさの植物が立体的に混在していることから、赤・黄・レモンイエローなどの複雑多様な紅葉(写真1)を楽しむことができます。

雪解けの直後のミズバシヨウに始まり、ニリンソウ、サンカヨウ、ニッコウキスゲ、コバイケソウなど、花が絶えることがないのが天生の大きな魅力です。なかでも天生高層湿原や溪畔林では、春から初夏にかけて一面お花畑になります。山地帯(ブナ帯)から亜高山帯の植物や湿原の植物をはじめ様々な種類があり、四十数種の野鳥など多様な動物の生態系を観察することができる優れたフィールドです。

天生峠(標高二一九〇メートル)を起点とする六・一キロメートルの遊歩道は、中部北陸自然歩道に指定され、健脚向きの登山コースとなっています。峠駐車場から約一・四キロメートル、森林浴を楽しみながら登ると植物群落保護林(天生高層湿原)。ここには匠屋敷があり古来の伝説を漂わせていま



新緑の木平湿原 (写真3)



ミズバシヨウとリュウキンカ (写真2)



カツラ門 (写真4)

原生林への入口、天生峠へ足を運んで、大自然を堪能してください。
◇アクセス
JR飛騨古川より車で三・一キロメートル(約五十分)
白川郷ICより車で二・二キロメートル(約二十

秋には、様々な種類や形、大きさの植物が立体的に混在していることから、赤・黄・レモンイエローなどの複雑多様な紅葉(写真1)を楽しむことができます。

雪解けの直後のミズバシヨウに始まり、ニリンソウ、サンカヨウ、ニッコウキスゲ、コバイケソウなど、花が絶えることがないのが天生の大きな魅力です。なかでも天生高層湿原や溪畔林では、春から初夏にかけて一面お花畑になります。山地帯(ブナ帯)から亜高山帯の植物や湿原の植物をはじめ様々な種類があり、四十数種の野鳥など多様な動物の生態系を観察することができる優れたフィールドです。

天生峠(標高二一九〇メートル)を起点とする六・一キロメートルの遊歩道は、中部北陸自然歩道に指定され、健脚向きの登山コースとなっています。峠駐車場から約一・四キロメートル、森林浴を楽しみながら登ると植物群落保護林(天生高層湿原)。ここには匠屋敷があり古来の伝説を漂わせていま